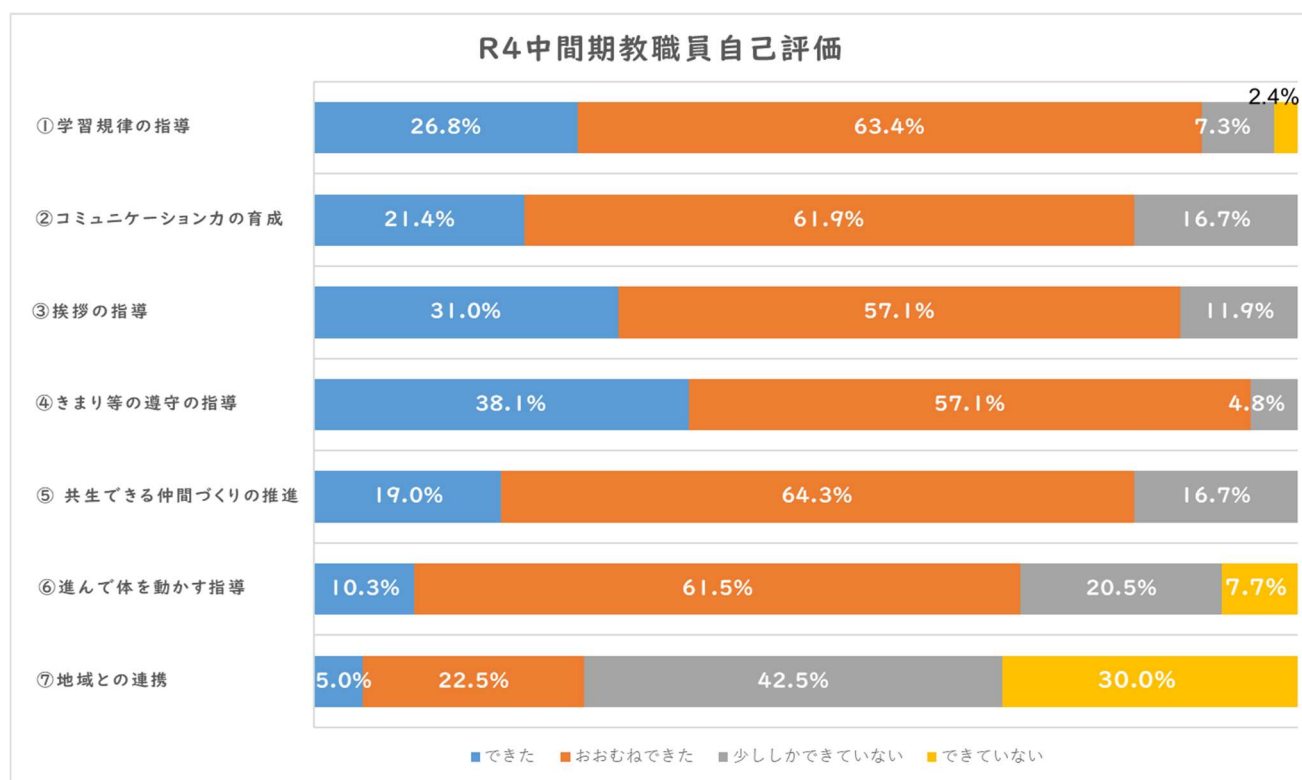


＜令和4年度中間期教職員自己評価について＞

本校の本年度の重点課題は、昨年度と同様に以下のとおりです。

- 「自ら学び、ともに考え合える子」の育成のために
 - ①学習規律を守り、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
 - ②情報機器等を活用し、学習意欲を高めるとともに、自分の考えをもち、コミュニケーション力を育む指導を行う。
- 「他人を思いやる温かい心をもつ子」の育成のために
 - ③進んで挨拶し、学校のきまりやマナーを守る態度を育成する。
 - ④人権意識を高め、自分も相手も尊重して共生できる仲間づくりを行う。
- 「健康でたくましい子」の育成のために
 - ⑤遊びや運動に親しむ態度の育成を図る。
- 「生駒を愛する子」の育成のために
 - ⑥学校・家庭・地域と連携した協働活動を推進する。

以上の内容が網羅されるように教職員の質問項目を精選し、自己評価を行いました（1学期末実施）。以下にその結果を示すとともに、簡単ですがその考察を記します。



①学習準備を整えさせ、学習規律を守るよう指導する。

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、90.2%でした。割合としては昨年度より少し下がっているものの、「しっかり指導できた」割合は5ポイント上がっており、本年度も教職員が学習規律を意識して取り組めたことが伺えます。

学習を行うにあたり、まずは、学習規律が大切になってきます。授業の前に学習準備をする、手を挙げて発言するなど、基本的な指導が概ねできていたように思います。その成果があって、授業中の子どもたちは、静かに落ち着いて学習できている子どもたちが多かったです。2学期以降も引き続き指導していくとともに、多様性のある子どもたちにも配慮していきたいと思っています。

②学習意欲を高める工夫をし、自分の考えをもたせたり、話し合い活動をさせたりして、コミュニケーション力を育む。

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、83.3%でした。コミュニケーション力を育むには、まず自分の意見、考えをもつこと。教職員は、ノートやタブレットを活用して自分の考えをもたせています。また、コロナ禍であっても、ロイロノートなどのアプリを活用したり、短い時間ながらもグループでの意見交流をしたりすることにより、コミュニケーション力を高める教職員の姿がありました。本年度は、国語科を中心とする「書く」活動の研究も進めているところです。今後も ICT を活用して効率的・効果的に学習を進め、学習意欲の向上を図るとともに、コミュニケーション力を育てていきたいと思っています。

③友だちや先生、地域の方たちに自分から進んで挨拶できるよう指導する。

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、88.1%でした。本校の子どもたちの挨拶は、明るく、元気で、とても良い挨拶をする子が多いです。先生方の指導や、地域の方や家庭でのお声掛けのおかげだと感じています。恥ずかしくて目を合わすだけの子、小さい声で挨拶する子など様々ですが、自分から進んで挨拶できる子の輪が、さらに広がっていくことを願っています。そのためには、まず私たち大人が自分から進んで挨拶できるようにしなければならないと思います。教職員でも挨拶について改めて取り組んで参りますので、ご家庭や地域でのご協力もお願いします。

④マナーやモラル、ルールを守って行動することで安心して学校生活を送れるように指導する。

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、95.2%でした。生徒指導関係については、年度当初に教職員で共通理解を図り、一貫した指導に当たっています。例えば、廊下を走っている子がいると「歩きましょう」という、いろんな先生方の声がよく聞こえます。しかし、廊下歩行については、なかなか改善しない現状があります。今後も子どもたちが安心して学校生活を送れるように、粘り強く指導していきたいと思っています。

⑤安心して学校生活を送れるよう、人権意識を高め、自分も相手も尊重して共生できる仲間づくりを進める。

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、83.3%でした。全校で「ありがとうの木」に取り組んだり、道徳の授業や学校生活全体で、道徳教育や人権教育に取り組んだりしました。また、子ども同士でトラブルが起こった際には、担任が仲裁に入ったり、他の教職員と連携を図ったりして、早期の解決を図るとともに、継続して子

どもたちを見守ってきました。6月に行ったいじめアンケートでは、いじめに関する記載があった時には詳しく聞き取りをし、その有無について確認しました。

⑥業間や業前の遊びや体育の授業を通して、進んで体を動かすよう指導する。

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、71.8%でした。本校の子どもたちは、昨年度のスポーツテストの結果から、柔軟性、投能力が県平均よりも低いというデータがあります。本校の子どもたちは、朝から元気よく運動場で遊んでいる子もいるのですが、昨年度よりもその数が減っているように感じます。しかし、中休みや昼休みには、昨年度よりも多くの子どもたちが運動場で遊ぶ姿が見られました。学級遊びで外に出ているクラスもありましたが、外遊びを推奨しようと外で遊ぶ元気な教職員の姿もありました。水曜日に、昨年度には無かった昼休みを設定したことは、子どもたちに良い影響を与えているかもしれません。熱中症を防ぐには、体力を向上させることも必要になってきます。2学期以降は、気候も良くなってきますので、教職員が積極的に声掛けをしていきたいと思えます。

⑦子どもの学習理解を深めるため、地域に住む方の協力を得るなど、地域との連携を図る。

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、27.5%でした。昨年度もこの項目に関しては割合が低く、コロナの影響もあり、地域の方の協力を得ることがなかなか難しかったことが理由の一つに挙げられます。しかし、それだけでなく、2学期以降の方がカリキュラム的に地域の方と交流する活動が多くあり、1学期の評価が低くなったことも理由として挙げられると考えています。夏期休業中に、2学期以降の計画を立ててくれている学年もあり、今後の感染状況にもよりますが、感染対策を行いながら積極的に教育活動を進めていきたいと思えます。